

105-324

問題文

71歳男性。膵臓がんで入院治療していたが、本人の希望もあり退院し、自宅で緩和ケアを受けている。退院時は、以下の処方であった。

薬剤師が訪問したところ、痛みの評価は、NRS(数値スケール)で5、強い痛みがある場合は、モルヒネのレスキュー薬を使用していた。また、最近、「薬が飲みにくい」という訴えもある。本人は、毎日お風呂に入りたいという希望がある。

(処方)

モルヒネ塩酸塩水和物徐放性カプセル 120 mg	1 回 1 カプセル (1 日 1 カプセル)
	1 日 1 回 夕食後 14 日分
モルヒネ塩酸塩水和物内用液 10 mg	1 回 2 包 (10 mg/包)
	痛いとき 20 回分 (全 40 包)
酸化マグネシウム	1 回 0.5 g (1 日 0.5 g)
	1 日 1 回 就寝前 14 日分

問324

薬剤師は、モルヒネ塩酸塩水和物徐放性カプセルを中止して、他の薬剤への変更を医師に提案することにした。薬剤として適切なのはどれか。1つ選べ。ただし、変更時点では、増量は考えないものとする。

- 1. フェンタニル1日用貼付剤(貼付用量4mg)
- 2. フェンタニル1日用貼付剤(貼付用量2mg)
- 3. フェンタニル1日用貼付剤(貼付用量1mg)
- 4. フェンタニル3日用貼付剤(貼付用量4.2mg)
- 5. フェンタニル3日用貼付剤(貼付用量2.1mg)

注) 以下を前提に計算すること

- オピオイドスイッチングを行う際の換算比は、経口モルヒネ対フェンタニルを100：1とする。
- フェンタニル貼付剤から1日あたりフェンタニルとして吸収される量は、1日用は貼付用量の約30%、3日用は貼付用量の約14%とする。

問325

その後、この患者が死亡し、患者の相続人から、薬剤が残っているので、薬局に返却したいとの申し出があった。確認したところ、残薬はフェンタニル貼付剤及び酸化マグネシウムであった。これらの薬剤の取扱いに関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1. フェンタニル貼付剤の返却には、都道府県知事の許可が必要であるため、申請するよう指導した。
- 2. 返却されたフェンタニル貼付剤は、回収することが困難な方法で廃棄した。
- 3. 返却されたフェンタニル貼付剤を薬局で廃棄したので、廃棄後30日以内に都道府県知事に届出を行った。
- 4. 返却されたフェンタニル貼付剤は、まだ使用期限を過ぎていなかったので、仕入れをした卸売販売業者に返品した。
- 5. 酸化マグネシウムは、まだ使用期限を過ぎていなかったので、必要に応じて相続人が服用してもよいと指導した。

解答

問324：1問325：2, 3

解説

問324

毎日お風呂に入りたい という希望から、3日用は不適切と考えられます。正解は1～3です。

経口モルヒネ 120mg → フェンタニル 1.2mg です。1日用であれば、用量の30% 吸収なので $1.2 \div 0.3 = 4.0\text{mg}$ 必要です。

以上より、正解は1です。

問325

選択肢1ですが
薬剤の返却に許可は不要です。よって、選択肢1は誤りです。

選択肢2,3は妥当な記述です。（）

選択肢4ですが
麻薬の譲渡・譲受については法律で厳しく規制されており、麻薬卸売業者への返品はできません。よって、選択肢4は誤りです。

選択肢5ですが
処方された人ではないため、不適切です。よって、選択肢5は誤りです。

以上より、正解は2,3です。